

人の温かさ

関西大学中等部 二年 塩田しおた 一喜いっき

僕は一年前に大きな病気をしました。血液の病気です。約四ヶ月位入院しました。

最初は学校を休んでいて気が楽だったし、勉強もしなくていいからラッキーと思いましたが、でもそれは本当に最初だけで、すぐに家に帰りたいと思うようになりました。

病院にもルールがあり、例えばゲームは決まった時間じゃないとしてはいけない、テレビも同様。それもすごく短い時間でもともゆううつでした。病院で出される食事もありおいしくありません。起床、就寝も決まっています、病院での生活はとも不自由でした。

体調が悪くなり骨髓移植をすることになりました。どの移植も相手がいて、病気の人に自分の臓器や血などをあげる事を承諾してくれないと何も始まりません。僕の場合、まず妹と骨髓の型が合うかの検査をしました。兄弟間では四分の一の確率で合います。そんな確率なので当たらないと思っていたけど、僕と妹の型が当たって驚きました。でも「当たったとしても妹の了承がなければできないよ。」と言われ、そうだなと思いました。でも妹はあげると言ってくれました。とてもありがたく、嬉しかったです。

妹は、外で遊ぶ事が大好きで、一日中外にいて遊んでいます。でも骨髓移植が決定したら、妹はケガをしたらダメなので、外遊びを止め、ずっとガマンしてきました。妹が「私の元気な血をあげるから、早くよくなってね。」と言ってくれた時すごく嬉しかったです。僕は妹に、感謝しきれないほどの物もらいました。

その後、治療はともつらく大変だったけど、無事に妹の骨髓が生着し、僕の体の中で増え始め、少しずつよくなっていました。

病気になって、しんどかったしつらかったけど、いろいろな人の温かさを感じることができました。

妹はもちろん、母にも感謝しています。病院に毎日通ってくれ、僕の世話をし、話し相手や僕ができないことをしてくれました。治療が進むと泊まりこみで付き添ってくれました。母がいるととても心強く、弱音を吐いてもいいので、とても気持ち安らぎました。

病院の先生は一言で言う、思ったことを直球で言う先生です。先生は話しやすいし、いい事も悪い事も含めて何でも答えてくれます。悪い事でも僕の事を思ってくれているのがわかります。僕は人と話すのが苦手だけど、先生のように相手の事を思い、話のできる人になりたいと思いました。

学校の先生は何回もお見舞いに来てくれ、授業で進んでいたプリントを、全部僕と一緒にやってくれたので、勉強においつくのが楽でした。学校の事もいろいろ話してくれました。だから学校に行くのが不安だったけど、その不安も少し薄らぎました。僕はとてもいい先生に恵まれたと思います、感謝しています。

この経験から、僕は人の温かさや、勇気をたくさんもらいました。この事があってからは、少々何かがあっても、「あの事があったのだから、こんな事くらい乗り越えてやる。」という気持ちで毎日過ごしています。

学校に行ける事は当たり前ではありません。当たり前前の生活が本当の幸せなのだという事を改めて知りました。だからこの病気は、僕を大きく成長させてくれました。

自分の普通は普通ではないという事。普通が一番いいという事。一人で乗り越えられない時は、皆の力で乗り越える事が出来るという事。

僕の周りでこの当たり前ができなくなっている人がいる時、この経験を生かして、手を差し伸べられる人になりたいです。